

平成29年度伏見保健センター運営協議会 摘録

日 時 平成30年3月16日（金）午後2時～4時

場 所 伏見区役所 2階 講堂

- 出席者
- 委員 17名（欠席者 3名）  
辻幸子，織田和博，藤枝英美，藤原朋子，松田保子，中西國彦，美濃敦子，市川英治，池田弘一，武田道子，小川正雄，加藤橘世，河嶋淑郎，山本明，櫻井勇，福嶋由美子，四方智子
  - 伏見区役所 7名  
山根保健福祉センター長，大泉子どもはぐくみ室長，伊藤健康長寿推進課長，荒木健康長寿推進課担当課長，中島障害保健福祉課長，山本子どもはぐくみ課長，井上地域支援係長
  - 深草支所 3名  
尾本保健福祉センター長，辻倉健康長寿推進課長，野村健康長寿推進課担当課長
  - 醍醐支所 3名  
溝口保健福祉センター長，乾健康長寿推進課長，北川健康長寿推進課担当課長
  - 保健福祉局 6名  
谷口京都市保健所長，医療衛生センター：井上感染症対策担当課長，亀山南東部方面第二担当課長，市川宿泊施設審査指導担当課長，吉岡宿泊施設審査指導担当係長，辻伏見医療衛生コーナー担当係長

内 容 1 山根伏見区保健福祉センター長挨拶

2 谷口京都市保健所長挨拶

3 出席者紹介及び会議成立の報告

4 議題1 平成28年度事業実績報告  
(荒木健康長寿推進課担当課長，井上感染症対策担当課長，  
亀山南東部方面第二担当課長)

<山本委員>健康寿命については，カウントが難しいとのことだが，平均寿命との10年の差を縮める対策として，病気の早期発見が必要。  
検診の精度はどうなのか。醍醐学区は集団検診の受診率が10%程度で伸びない。集団検診の精度を上げる取組が必要。  
問診も含め，集団検診の在り方，手法を検証する必要がある。  
実績資料では実施件数があがっているが，課題を浮き彫りにして，対策を練って実施すべきではないか。

<山根センター長>説明資料は、従来の報告形式を踏襲したもの。課題を明らかにして取り組む必要を認識しており、今後、より分かりやすい資料の作成に努める。

<谷口所長>健康寿命については、計算方法が確立していない。集団検診は市国保加入者を対象としており、特定健診の受診率が20～25%で約3万人であるが、政令指定都市の中では高い。国保以外の受診率は分からない。検診は生活習慣病の予防を目的としており、そのために国の定める検査項目より拡充して実施し、全国的にも優れていると認識している。

<美濃委員>ネズミの駆除相談に対する具体的対応を教えてください。

<亀山課長>どこに出てくるかを聞いて、ネズミ取りのかごがよいのか、毒エサがよいのか、ネズミ取りシートがよいのか、など助言している。侵入経路の対策等は建物の構造によるので、大工に相談するよう助言している。

<美濃委員>かごは貸してもらえるのか。

<亀山課長>かごは貸し出しもしている。

## 議題2 平成29年度のアウトリーチ事業について

(荒木健康長寿推進課担当課長、野村健康長寿推進課担当課長、北川健康長寿推進課担当課長)

<山本委員>深草の取組で、居場所に出向いて話をしているのは良いことである。そういう場面を設定するコミュニケーションはどのようにしているのか。学区の重点取組は感銘した。防災訓練等で、毎回実施してほしい。

<野村課長>出前教室が実施できることを各種団体の会議等でお伝えしたり、個別に説明するなどした。美濃委員にもお声かけし、深草学区社協による町内の高齢者を対象とした会食会の場を活用し開催することができた。また、支所内で実施する食育セミナーに高齢者の居場所の代表者が参加されていて、その際に、自分の運営する居場所でも食育に関する教室をしてほしいということで、地域の居場所での実施にもつながった。ラジオ体操の場も、地域住民同士の交流と情報交換の機会になっている。

<山本委員>こうした取組の輪が広がるように工夫してほしい。定期的に発行物に掲載してほしい。

<山根センター長>御意見感謝する。検討していきたい。今後とも委員の皆様の活発な御意見をいただき、地域保健の向上に取り組んでいきたい。